

有意義で、充実した一年になるといいですね。

歯がしみる

僕たちの診療室にも「歯がしみる」という訴えで来院される方がいます。この「ことう通信」でも何度か取り上げたテーマですが、やはり冬にこのような訴えが多いようです。水が冷たくなりますから。

さて、この「しみる」というのが本当にやかいかいなんです。原因が一つではない上に、作戦を考えないといけない時があるのです。

まず、しみる原因。最も分りやすいのは虫歯の前段階。これは対処も簡単です。虫歯をとり、しっかり詰めればいいだけです。その他が大変なん

です。歯周病で歯ぐき下がってしまいい、歯の根が露出するケース。高齢な方



では症状が出ないのですが、若い方だと口全体がしみることもあり。さらに、噛み合わせのストレスによって生じるケースがあります。歯並びが悪い人だけではなく、寝不足やストレスによって夜間に歯ぎしりやくいしばりを起こして生じることがあります。

なかなかこれらの原因をしっかりと除去できないのが実情ですが、診療室ではしみる場所を確定し、薬やプラスチックを付けることで刺激を遮断するような処置を行います。最悪の時は歯の神経を除去することもありますが、それでも症状が残ることがあります。「ことう通信」読者なら

お分かりだと思えますが、歯の神経といわれているのは歯の内側にある神経であり、歯を支える外側の神経は歯を抜くまで存在するからです。

そこにもう一つやかいかいことがあります。しみるというのは神経が興奮状態であるということです。そのような状態が続いているとほんの少しの刺激でもしみてしまいます。このような時は、審美性や歯ぐきへの悪影響が多少あったとしてもガッツリ歯をプラスチックなどで覆い、歯への刺激を遮断するようにします。症状が落ち着いたらそれを外していきま

す。しみるというのは本当に対応が難しいんです。裏を返せば単なる物質に見える歯ですが、繊細な自分の臓器ということ。やっぱり大切にしないと！